

技 術 開 発 完 了 報 告

秋 田 管 林 局
森 林 技 術 セ ン タ ー
管 林 署

課 題	ヒバ及び有用広葉樹の天然林施業について	開発 場所	岩瀬沢国有林 330林班か小班	開発 期間	平成 4 年 ～ 平成 13 年	局 担当課	森 林 技 術 セ ン タ ー
開 発 結 果							
<p>1. 開発経過 本試験地は、昭和52年度に天下第2類で更新した箇所へ昭和63年度に「広葉樹天然林施業」試験地として、有用天然木の天然林保育作業による成長効果について検討するため設定した。 当該試験地は、ヒバが多く混在することから、平成4年度に現課題名に替えて再設定し、調査・維持管理を行った。</p> <p>2. 調査内容等 (1) 試験地設定状況 ア. 試験地は、標高600m、傾斜中でヒバ、ブナを主として針広混交型となっている。 イ. 設定区画は、1プロット10m×10mで区画し、全刈区、筋刈区、坪刈区、無処理区の4区画を等高線に平行に設定している。</p> <p>(2) 調査内容 調査は、各方法別に成長調査（直径、樹高）等を行い、その効果について比較検討する。</p> <p>3. 調査結果 平成8・9年度に林分成長調査等を実施した結果 (1) ヒバ及び有用広葉樹（ブナ、ナラ、ウダイカンバ等）はササ、灌木類より上層となっている。（別紙写真参照） (2) 成林に必要な有用広葉樹等幼木本数は確保されている。 h a 当たり現存本数 試験地内平均 13,000本 当該小班内 ほぼ試験地内に近い本数が成育している。</p>				<p>(3) 気象害等の被害もなく現存率（96%）が高いことから、成林が期待できる。</p> <p>まとめ 当技術開発課題は、開発期間を平成4年～平成13年で着手したところであるが、天然林として十分成育可能と判断されるので、平成9年度をもって完了とする。 今後は、林分の経過観察をし、箇々の立木の優劣が判断できる時点（7齢級前後）に除間伐を行い、優良な二次林への誘導を図る考えである。</p>			

作業方法別現況写真



(全刈区)



(筋刈区)



(坪刈区)



(無処理区)